

5 空海と覚鑿

【全4回】／開催方法：



よしだ こうせき
吉田宏哲

大正大学名誉教授
真言宗智山派宗機顧問
宥勝寺住職



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000(納入期限：4月4日)

【日程・時間】【全4回】 4月8日(土) 10:30~12:00・13:20~14:50
4月15日(土) 13:20~14:50・15:00~16:30

■受講に必要なもの
[テキスト] レジューメ配布

弘法大師空海(744~835)は伝教大師最澄(767~822)と並んで、平安仏教を代表する宗祖である。この二人は勅命に依って唐代の中国に留学し、帰朝して後、最澄は天台宗を、空海は真言宗をそれぞれ立教開宗した。平安時代の前の奈良時代には、南都六宗(律、俱舎、成実、三論、法相、華嚴)があり、平安時代の後の鎌倉時代には、浄土宗、浄土真宗、時宗、臨済宗、曹洞宗、日蓮宗が成立して、日本仏教の主要な宗派が出そろった。これら三つの時代の仏教の特色を概括的に指摘すると、奈良平安の二つの時代の仏教は、経律論(三蔵)と言われる仏教の典籍のどれかに基づいて形成されており、他方、鎌倉時代の諸宗派は、信や行の一事を選択して人々の心を捉えたと言ってよいであろう。

一方、眼を転じて世界の宗教を見ると、これは大別して民族宗教と世界宗教に分けることができる。これは言ってみれば世界の各民族や部族の固有の宗教と、民族や国家を超えて世界に普遍的に信じられている宗教の違いである。例えば日本の神道や中国の儒教、道教、インドのヒンドゥ教などは民族宗教だし、仏教やキリスト教、イスラム教は世界宗教である。また人間は死後どうなるかに関して、再生(輪廻転生)と復活(砂漠地帯の宗教)の違いに分ける宗教の区別も可能である。これはつまりアジア・アフリカ・オーストラリア・南米の地域では死体は消滅してしまうから霊魂(インドではアトマン)が来世に別の形態(身体)をとって再生すると考えたのであり、他方、砂漠地帯では死体はミイラになって残るから、この身体が再び蘇る(復活)と考えたのである。インドの宗教やインドで成立した仏教は前者であり、キリスト教やイスラム教は後者である。但し仏教は輪廻転生の束縛からの解放(解脱涅槃)を志向するから再生と復活の宗教のどちらにも該当しない。釈迦の最初の説法は四つの真理(四諦)というものであったが、その第一の真理は一切皆苦。そして第二の真理はその苦の原因の集まりは何か。第三の真理はその苦の原因の集まりを無くした結果得られる一切の苦の生滅の境地。第四の真理が苦の原因の集まりを無くす実践の方法であった。

空海の仏教(密教)の特色は南都六宗や天台宗、それに鎌倉の諸宗派の立場の全てを統合するものであった。それはどのようなものであったか、又それを受けた覚鑿の仏教とはどのようなものであったかを明らかにしたい。